

## 令和3年度 第2回 大野市総合計画・総合戦略推進会議 議事メモ

日時：11月4日(水) 10時00分～11時20分

場所：結とぴあ 305・306号室(3階)

- 委員 19名(全21名中)
- 事務局 行政経営部長、政策推進課長、政策推進課3名
- 担当課 産業政策課、観光交流課、健康長寿課、こども支援課、地域文化課、環境・水循環課 各1名

### 1 開会

事務局より開会

### 2 会長あいさつ

環境、地球温暖化対策について、岸田総理はかなり前向きであるが、本日、ごみ減量部会からの報告がある。その他、主要な施策の取り組み状況についても報告がある。この2つについて、ご意見をいただきたいのでご協力願う。

### 3 推進会議のスケジュールについて【資料1】

(事務局より説明)

- ・本年度の会議は、第六次総合計画と第2期総合戦略がスタートして1年が経過していないため、主要施策の中間時点での報告と専門部会の報告を行い、ご意見をいただきたい。
- ・来年度は、本年度1年間の実績が出るので、本格的に実施状況の検証を行っていただきたい。
- ・そのため、会議の開催を当初年2回としていたが、年3回とし、検証結果の報告や取りまとめなどをしっかりと行っていきたい。

### 4 議事

#### (1) 令和3年度主要な施策の取り組み状況について 【資料2】

※事務局から資料を読み上げ

(意見、質疑)

#### ○数値目標の実績について

- 委員 現時点の数値目標の実績が入っていると施策の進捗状況が理解しやすい。1年後からはなるべく数値が入った評価をお願いしたい。
- 事務局 おっしゃるとおり。第五次総合計画については、本年度の1回目の会議で数値面から実績を報告した。来年度の1回目の会議では数値面から実績を報告する。

## ○河川の濁水について

委員 現在、真名川の河川改修工事が行われていることが影響しているのか、清滝川の水が流れていない。町内の用水路の水も流れていない。清滝川では魚が死んでおり、臭いがひどい。第六次総合計画のくらし環境分野の説明には、「自然環境と調和しながら、誰もが快適に暮らすことのできる持続可能なまちづくり」と書かれている。計画と現状の整合性をどのように考えているか。

担当課 現状は把握しており、大変ご迷惑をおかけしている。早急に対応を進めるのでご理解願いたい。

## ○マイナンバーカードの普及促進について

委員 マイナンバーカードの普及率を年齢別に把握しているのか。

事務局 そのような集計はしていなかったと思う。

委員 マイナンバーカードの普及率を上げるために、例えば、出生のお祝い時とか小中学校の入学時とか、そのような場面で親と一緒に子どものカードを作ってもらえるようなことができると思うので検討してほしい。

## ○大野ですくすく子育て応援パッケージについて

委員 大野ですくすく子育て応援パッケージについて、「子育て支援の施策を取りまとめて、情報発信」とあるが、対象者一人一人に、情報発信しているのか、それとも、市民全員に情報発信しているのか。

担当課 本年度のパンフレットは、5月に全戸配布を行った。ホームページやLINEでの情報発信ほか、保育園やちくたっくでのパンフレットの掲示等を行っている。

委員 広い範囲に情報発信すると、対象者には中々見てもらえない。対象者個人、一人一人に焦点を当てた情報発信ができる方が良い。図書館では、0歳から2歳までの乳幼児を対象に絵本をプレゼントする「ブックスタート」を行っているが、対象者に何回も案内を送付することで、最終的に対象者の70パーセント以上に利用してもらっている。このように、一人一人に情報発信できると良い。

## ○大野ですくすく子育て応援パッケージ・大野で来て見て住んで応援パッケージについて

委員 大野ですくすく子育て応援パッケージについて、令和4年度の新たな支援として考えていることがあれば教えてほしい。また、大野に来て見て住んで応援パッケージの個別版の「女性応援」とはどのようなものなのか。さらに、「10月15日現在、大野市への移住支援を受けて6世帯が市内に移住した」とあるが、Uターンなのか、Iターンなのか、県外からなのか。また、この6世帯という数値が目標に対して順調なのか、そうでないのか教えてほしい。

担当課 子育て支援の来年度事業について、本年度の大野市子ども・子育て会議での委員からのご意見やアンケートを踏まえて、改善できるところは改善したい。

担当課 来て見て住んで応援パッケージの女性応援は、ひとり親家庭や社会進出を目指す

女性を応援するような内容としている。また、移住者の区分について、ここに記載の6世帯の内訳は、Iターンが3世帯、Uターンが3世帯であり、県内外の区分では、県内が1世帯、県外が5世帯となっている。さらに、移住者数の実績について、昨年度同時期と比べるとほぼ同じとなっている。

### ○生分解性マルチの利用促進について

委員 「里芋を栽培する農業者に生分解性マルチの購入費用を補助する」とあるが、具体的にはどのようなことか。プラスチックごみの削減を図れることは良いことと思うが、現時点での補助件数30件という実績は多いのか少ないのか。

事務局 農家は春にマルチを設置して、収穫時期にマルチを剥がす。剥がしたマルチは農協さんに有料で引き取ってもらう。引き取られたマルチは、専門の業者に渡って処理される。その際の処理で、これまでのマルチは石油製品であるため、二酸化炭素等を発生させてしまう。生分解性マルチは、そのまま田んぼにすき込むことができる。一方、通常のマルチより価格が高くて普及しにくいので、市が購入を補助するというもの。30件という補助件数は少ないと感じている。来年度は広報に力を入れることが必要。田んぼにすき込めば良いので作業の省力化を図れる。

事務局 マルチの購入は農協さんが年度末に農家からの発注を集計して注文をする。生分解性マルチへの補助は、本年度からの新規事業であり、公表されたのが2月下旬から3月となり、農家の発注に間に合わなかったと思われる。農家が事前にこの補助を知っていれば、生分解性マルチを購入したと思うので、来年度は広報をしっかりしたい。

## (2) 専門部会「ごみ減量部会」の報告について 【資料3】

### (委員より概要説明)

- ・主要な施策として脱炭素化を進める大野市において、「ごみの減量化・資源化」をテーマに3回の専門部会を開催した。
- ・部会には、推進会議の委員6名のほか、大野市消費者グループ連絡協議会の会長に参画いただき、大野市の担当課職員も含めて8名で開催した。
- ・部会員からは、所属団体の立場からの意見や女性目線での意見、事業者目線の意見など、活発な意見交換が行われた。
- ・現状と課題を整理し、テーマを「雑がみの分別回収」と「食品ロスの削減」の2つに絞って検討し、「ごみの減量化・資源化」を進めるための提案をまとめたので、ここに報告する。

※詳細については、事務局から資料を読み上げ

### (意見、質疑)

### ○ごみ減量に伴う経費の削減額について

委員 「市民1人1日当たりのごみ排出量について、令和元年度の950グラムを令和

12年度に919グラムまで削減することを目標としている」と書かれている。仮に、これだけごみを削減できたとして、経費の面では年間どれぐらいの削減されるのか。

事務局 ごみ焼却の経費とごみ減量に伴う二酸化炭素の削減量について、現在、調査中であり、答えを持ち合わせていない。そのような視点を持って検証を行っていきたい。

### ○雑がみ回収袋について

委員 雑がみ回収袋をぜひやっていただきたい。ビニールと一体となっている雑がみは、すぐごみ箱に入れてしまいがちなので、雑がみ回収袋があれば分別意識が高まると思う。

### (3) その他

#### (事務局より説明)

- ・本日の会議で発言できなかったことなどご質問やご意見があれば、「ご意見シート」を11月11日までにご提出いただきたい。
- ・総合計画やSDGsを多くの方に知ってもらうため11月23日に「大野市サステイナブルフォーラム」を開催するのでご参加いただきたい。

## 5 閉会

副会長 貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。本年度から「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」として第六次大野市総合計画が始まっており、様々な施策が行われている。住み続けたい大野になるように推進会議を進めていきたいので、引き続きご協力をお願いしたい。

>> 終了